# 第二章　名勝・古墳・遺跡

## 第一節　名勝

❒人見神社展望所（人見）

周西丘陵の西端、標高六七・三ｍの人見神社境内に立地している。一八〇度の大パノラマが広がる東京湾、対岸に聳えたつ霊峰富士の眺望は圧巻で最近「ちば眺望一〇〇景」に指定された。

見頃は冬季、または強風が吹き荒れた翌日などで気象条件により大きく左右される。特に冬場晴天の早朝時は見事で感動を飛び越え畏敬の念を覚える。

人見神社展望所

富士山から右に目を転じると対岸は横浜ランドマークタワー・ベイブリッジ。北は東京スカイツリー・東京ゲートブリッジ。西は三浦半島、湾入口には伊豆大島の島影が薄っすらと望める。

鳥居と霊峰富士（歌川広重風）

湾の左は砂嘴（サシ）が伸びる富津岬。境内の南西側も視界が開け、眼下には小糸川を跨ぐＪＲ鉄道橋。視線の遠くに白亜の東京湾観音、その左に三舟山・鹿野山の山並が見える。

湾内はコンテナ船・タンカー・艦船などの海上航路。空は羽田国際空港を離着陸する航空機が頻繁に飛び交う空路で、夜景も楽しめる周西地区極めつけのビューポイントだ。

横浜方面（ランドマークタワー）

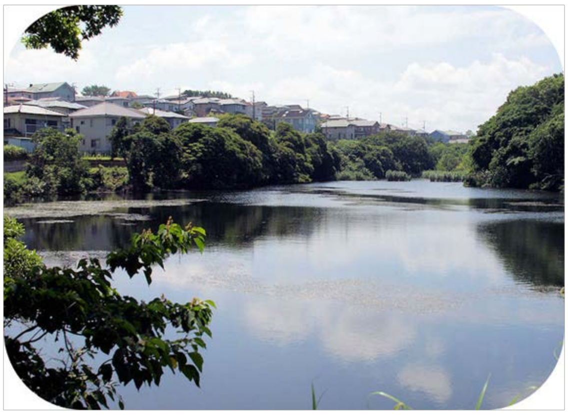
### ❒大関池・新関池（君津台）

周西地区唯一の自然の宝庫。珍しい植物や昆虫、鳥類が見られる。

春、桜花が堰を彩り、雑木林につり下がる藤花が水面に揺れる。やがて鶯のさえずりが谷間に響き渡り、カワセミのホバリングに見とれ追いかけていると、春がつかの間に通り過ぎていく。

夏、新関池では葉の半分が白く、長くうなだれるような花穂をつけたハンゲショウが群生する。水面を蝶のように舞うチョウトンボやコシアキトンボ・オニヤンマも見られ、池ではハゴロモモ・ヒシ・ガガブタなどの水草が

東京スカイツリー・東京ゲートブリッジ



新関谷池

大関谷池

チョウトンボ

ハンゲショウ

カワセミ

コシアキトンボ

ガガブタ

ヨシキリ

花を咲かせ、セミの合唱がはじまる。渡り鳥のヨシキリが葦につかまり、力一杯声を張りあげ「ギョギョシ・ギョギョシ……」と鳴き叫ぶ。
　やがて冬、池はカルガモ・オオバン・オカヨシガモ・ホシハジロなどの渡り鳥で賑わう。開発前の君津台は、狐や狸、雉や山鳩などの猟場で「鉄砲撃ち」の話を古老からよく聞いた。

❒君津緩衝緑地（坂田）

　公害防止事業団が君津都市計画事業の一環として昭和五三年六月から二年一〇ヵ月を費やし、臨海工業地帯と市街地との間に完成した都市計画緑地。
　完成後は君津市に移譲され、昭和五六年七月一日開設した。その後、指定管理者制になり平成二八年度は三幸株式会社が管理している。
　施設は、管理事務所・スポーツ広場（野球場、その他）・芝生広場（野外ステージ、あずまや）・坂田東広場・坂田広場・キャンプ場・大和田広場・人見広場があり、既存の樹林を生かした延長約二km、巾四〇～二〇〇mの緑地帯がある。周辺一帯は環境保全に配慮された緑地帯で市民の散策や憩いの場となっている（施設利用は一部有料）。

坂田東広場キャンプ場

　坂田東広場は五、〇〇〇㎡のキャンプ場と芝生広場を併せて一四、〇〇〇㎡で、男女トイレや四阿（アズマヤ）も完備されている。キャンプ場はかまど三基と炊事場があり周西の身近な里山として森林浴が楽しめる。

芝生広場付近

❒小糸川ジョギングコース（人見）

　周西の小糸川ジョギングコースは、堰下公園・周西公民館・人見保育園・人見大橋（通称亀橋）・周西橋までの右

岸にある。
　冬から春に向かう天気の良い日は朝霧が見られる。ゆったりと岸辺の葦や楊の木を包み込む光景は、一幅の水墨画を見るようだ。やがて、朝日が昇り始め黄金色の光と影で見事なコントラストを作る。早起きは三文得する自然の恵みだ。春は桜のトンネル。川には水鳥が集いウグイス・ホトトギスの囀りが響くとコイやフナの産卵がはじまり河岸では黄菖蒲・ノイバラ。
　初夏を迎える頃は植え込みにサツキが咲きハンゲショウが行きかう人の目を和ませる。

人見４丁目ジョギングコース

初日の出 （人見大橋）

朝日に染まる人見５丁目田圃（三舟山・鹿野山を望む）

❒新日鐵住金社宅群（人見・大和田）
　最盛期の大和田団地は、新日鐵住金一一階高層社宅が一二棟、四階低層社宅が一一棟建つマンモス団地群だったが、平成二六年にＤ一～三棟は取り壊された。
　団地からは市街地・新日鐵住金の工場群・東京湾アクアライン・海ほたると波の塔など東京湾が眺望できる。一帯には、野球場・グラウンド・独身寮など社員の福利厚生施設があり、地域交流の場となっている。

大和田団地航空写真
（昭和 50 年頃）

**マンモス団地群** （新日本製鐵大和田社宅）　～平成 19 年頃～

**東京湾**
（対岸：横浜）
（中央：東京国際空港新滑走路基礎組立中の橋梁）

**新日鐵住金君津製鐵所工場群**
（手前：新日鐵住金君津球場）

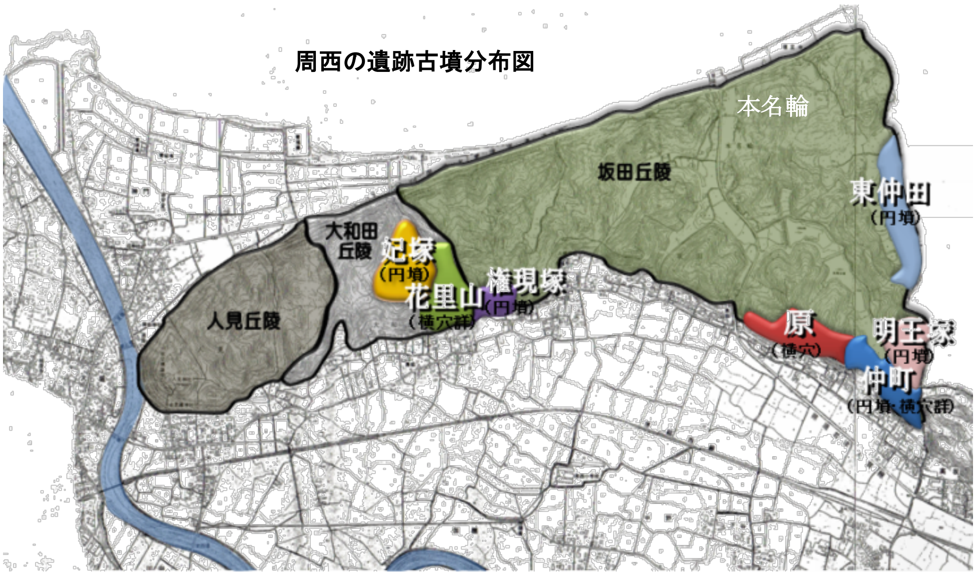
## ✍周西ビュースポット

周西には四季折々、自然の変化を楽しむことが出来るビュースポットがあります。最近、人見山山頂は周辺の木々が伐採され広角度で景色を眺望できるようになりました。

とりわけ山頂から望む富士山は絶景です。この章には、見る場所によって歌川広重作『不二 36 景』（上総鹿埜山鳥居崎）の版画と似たようなロケーションの写真があります。

この写真をゲットするには、季節・気象条件・根気が必要です。私の「人見山大鳥居先」作品を目指してチャレンジしては如何でしょうか。

**上総鹿埜山鳥居崎**
（歌川広重作）




❒権現塚古墳（坂田）

権現塚古墳は坂田字谷七三二番地にあった。この地に住んでいた者は水越姓を名乗り、また近くにも同姓の家があった。権現塚のある水越家は屋号を権王と称し、その祖先は戦国時代に和田城（大和田山）の守備にあたった武将であったと伝えられている。その西裏山には海岸を見おろす見晴らしのよい平坦地があり、幅広い勾配の地所があった。この地を権王山といった。

『坂田郷土誌』

塚は昭和一四年（注1）、千葉県史蹟調査委員小熊吉蔵と周西尋常小学校訓導小川政吉が地元の水越清等の協力で四月二一日から三日間かけて発掘した。形状は丸塚だがやや楕円形。直径約三mで、蓋石には砂質凝灰角礫岩（サシツギョウカイカクバンガン）の上質のもの三枚を使用し比較的扁平な大きな石で羨道・玄室を覆っていた。壁にはつぶ石一〇個と岩石などが粘土性の強い土をもって塗りこめてあった。

石槨（セッカク）内の全形は丁字形をなし、奥の一字型の玄室は幅約一m、長さ約三mあり、中央より分岐して南北につくられた羨道は幅一m、長さ八m、深さ一、五mに及び、南に延びて外部まで通じている。玄室の上に大きな楠の木が生えていたのでその下の一部は調査不能となった。

発掘当時の権現塚古墳（昭和 14 年 4 月 21 日 ）

出土品は人骨（玄室に二体、羨道に七、八体分）、直刀三振（非常に錆び折れていた）、石器一個（用途不明）、耳輪三個、管玉一個（瑠璃色）、硝子玉一個（小さいもの）、その他三個（用途名称は不明）。

この古墳の築造年代は古墳時代の末期に属し、單葬より合葬に移った時代のものと想像される。

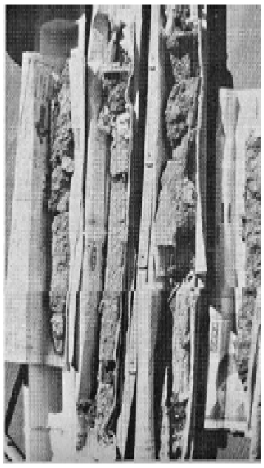
（「房総郷土研究　第六巻・第四号
昭和一四年六月一〇日　隔月發行」）

注1　発掘時期は諸説ある。石碑は昭和八年と刻まれ、水越清家所蔵写真の裏書は昭和一〇年？（ママ）、「房総郷土研究」には昭和一四年と書かれている。本書では、水越清による古墳の所在発見を昭和八年、発掘は「千葉県史蹟調査委員小熊吉蔵調査報告書」にある昭和一四年を採用する。

❒妃塚古墳（大和田）

妃塚古墳は、大和田団地南端中腹(記念碑から東方向、字中ビョ)にあった。

昭和三七年、社宅建設に先だち発掘調査したところ、今から一三〇〇年前の横型で典型的な殉死古墳と推定された。規模は直径一五mの円墳で全長九、六mの横穴式石室が特徴。その平面形態から「L字型石室」とよばれ羨道（センドウ）付きの大きな石室だった。



出土遺物「直刀」

発掘状況

妃塚古墳 「字中ビョ」山上

昭和三七年一月一九日調査した時は確認できなかったが、同年二月一二日発掘に成功した。古墳は土地の長老達の伝説通りの姿だった。中には人骨一一体分、直刀六本、刀子五本、耳環五個、須恵器二個、土師器碗一個、貝の腕輪一個、矢じり二個、釘数本など。直刀の長いものは九五cm、耳環は金メッキの銅製品だった。なお玄室は一段高く玉石を敷き詰めた最高権威者の室に相応しいものだった。

（『君津製鐵所十年の歩み』）

**❒花里山横穴群（大和田）**

昭和四六年、大和田団地の区画整理事業に伴い、南斜面中腹（ふもとの集落から見て約三〇m高い位置）にあった横穴四基の発掘調査を開始した。

調査開始以前は二基が開口、一基は半開口していたが、今回の調査によって新たに一基が発見され、台地斜面にほぼ一直線上に配列した状態で所在していた。花里山横穴群の時期は、出土品から七世紀後半（西暦六五〇年）以降と考えられている。

（「君津市教育委員会　発掘調査概報」）

**花里山３号出土遺物**

須恵器　長頸壺　土師器小型壺　須恵器　平瓶　太刀片

花里山横穴群（後方矢印部）
前面：改葬中の大蓮寺

**❒本名輪遺跡（坂田）**

本名輪遺跡は県道九〇号線の坂田交差点から南へ約三〇〇mの地点に所在する。都市計画道路中野・坂田線改良事業に伴い、昭和六〇年七月に調査が行われた。

ここは弥生時代集落の一部で、住居跡内の施設や土器に相模地方との共通性がある。調査対象地は、南北に細長く旧海岸線から至近距離にあり標高は七mである。

検出された遺構は住居跡八軒、ピット群一ヶ所、ピット一五ヶ所、炉跡一ヶ所、溝二条、石組遺構一基、全体に遺存状態が悪い。

住居跡は四本の主柱と円形状に配列する柱穴の二通りがあった。壁・床が残っている住居跡は一軒のみ。規模は五m位で弥生時代後期と推定される。

出土遺物は弥生土器の壺（ツボ）・甕（カメ）・ミニチュア土器・浅鉢など。その他に砥石・石鏃（ヤジリ）・ガラス小玉（スカイブルー）・炭化米などが

発掘時の本名輪遺跡

あり石組遺構（埋葬施設）と思われる。
土器は羽状縄文・斜行縄文・小波状の文様などが施されている。出土品から一時的な居住でなく、長期間継続して生活した可能性が考えられる。
東側山上にある「本名輪遺跡公園」と遺跡発掘場所は直接的な関係はない。
特に炭化米は県内では例がなく農耕を背景とした集落の一端がうかがえる。
弥生式遺跡は近くの吉ヶ作でも確認されているが未調査である。
（「君津市教育委員会発掘調査概報」）

出土遺物
（炭化米）

❒東仲田古墳（坂田）

年代不明。当古墳は東に畑沢、北に東京湾、西に坂田、南は久保山に囲まれた旧西房総街道の坂田丘陵側中央部に位置する。南下すると明王塚円墳、山の根付近には仲町横穴群（一七基）がある。
昭和四八年八月、古墳の発掘調査が実施された結果、立地の規模は底辺二〇m、高さ二mの三角形の台地上に径七m、高さ一mの土盛りをした円墳。
石棺は、台地の表土を若干掘り下げたところに粘土質砂岩で作られた竪穴式石組で、長さ二一三㎝、幅七五㎝、深さ四〇㎝。蓋石は、厚さ二〇㎝位の六枚の板石。底石には、厚さ二〇㎝位の板石が三枚、側壁の南北にそれぞれ二枚、東西一枚ずつ使われている。

石棺蓋

石棺内部

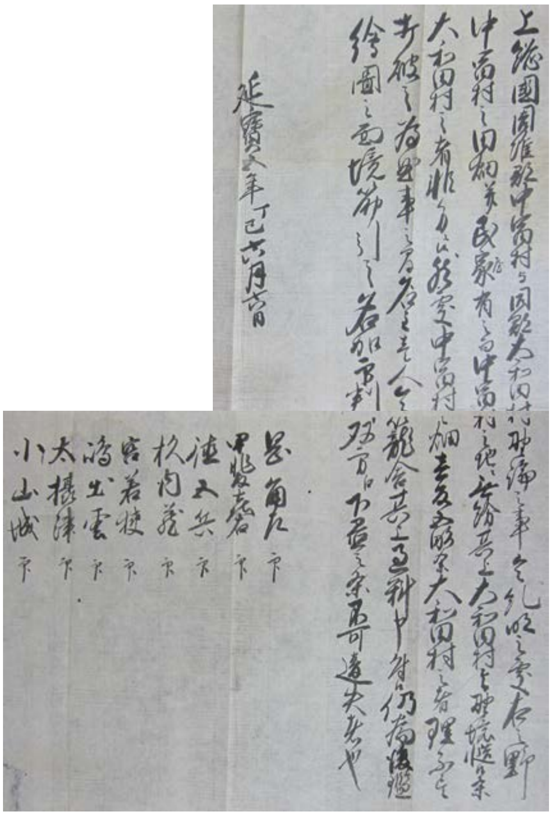
出土遺物は鉄器片が一片のみであった。標高五三mの狭い山頂に構築されたためか古墳としては小規模のものである。
（「君津市教育委員会　発掘調査概報」）

❒その他

坂田字仲町円墳一基、坂田仲町横穴古墳群、坂田字原横穴古墳群がある。

ほっと一息

## 覚書



（出典：大和田区有文書　大和田自治会蔵）

**延寶五丁巳六月六日　大和田、中富境界裁定絵図**

中央の加印場所を大和田、中富（伽藍）の境と決定

※「絵図（一通）」、「覚書（一通）」は大和田、中富でそれぞれ保管